

紹介状をお持ちの患者さんへ

医療連携・患者支援センター 竹原 和宏

当院では国の政策に基づき「かかりつけ医」と「大学病院」の役割分担を明確にし、協力しあって質の高い医療を安全に提供できるよう努めています。日頃ご自身の体調で気になることがありましたら、まずはかかりつけ医へご相談を願います。かかりつけ医は必要に応じ、適切な医療機関を紹介してくれます。

かかりつけ医療機関等からの紹介状をお持ちの患者さんは「紹介患者事前診療予約(以下、事前予約)」をお取りするこ

とが可能です。事前予約をされている患者さんは優先的に診療を受けることができ、待ち時間が短縮されますのでぜひご利用ください。紹介状をお持ちの場合、【患者さんから直接のご予約】と、【かかりつけ医療機関等からのご予約】の2通りの予約方法があります。いずれかの方法でご予約をお取りください。

なお、紹介状をお持ちの場合はご予約がなくても受診は可能です。事前にお問い合わせの上お越しください。

患者さんから直接のご予約

紹介状をお手元にご用意いただければ、紹介状封筒に記載の事前予約専用ダイヤルへお電話をください。(専用ダイヤルの記載がない紹介状封筒をお持ちの方は代表電話番号:043-462-8811よりお電話をください)



※一部の診療科ではご予約が取りできない場合があります。また、受診をお急ぎの患者さんにはご予約を取らずにお越しいただくようご案内する場合があります。

かかりつけ医療機関等からのご予約

紹介状をお書きいただいた医療機関等が、当院の事前予約専用ダイヤルにお電話する方法です。患者さんご自身がお電話される場合は、紹介状をお書きいただいた医療機関等にご相談ください。

医療機関等の方であれば医師に限らず、どなたからでもご予約が可能です。

外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休 診 日 日曜日・祝日・第3土曜/創立記念日(6月10日) 年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

■ 当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。新年を迎え、1年の抱負を決めている方も多いのではないのでしょうか。昨年はラグビーで日本中が歓喜に包まれましたが今年は東京オリンピック2020が開催され、スポーツを通して盛り上がると思います。スポーツは心身を健康に保つことに繋がると感じており、私も運動を始めてから体調を崩しにくくなりました。みなさんもスポーツを通し心身を健康にオリンピックを楽しめる年にしましょう。(医療連携・患者支援センター 神場)

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2020年1月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



SAKURAdayori

- 東邦大学医療センター 佐倉病院の基本理念
- 質の高い医療を安全に提供する病院
 - 地域に貢献する病院
 - 人間愛を共有する病院
 - 楽しく明るくチャレンジする病院
 - 良き医療人を育成する病院

- 患者の権利
- 質の高い公正な医療が受けられます
 - 個人の尊厳が守られます
 - 個人のプライバシーが保障されます
 - 必要な医療情報の説明が受けられます
 - セカンドオピニオンが保障されています
 - 医療行為について自己選択ができます

新年挨拶



佐倉病院 病院長 長尾 建樹

新年おめでとうございます。無事に新しい年を迎えることができたことを喜び申し上げ、日頃から東邦大学医療センター佐倉病院の運営に多大なご協力を頂いていることに感謝致します。教職員一同、新年にあたり気持ちを新たに、「患者さんのために」という基本に立ち返り、一丸となって地道に医療に取り組んでまいり所存です。本年も何卒宜しくお願い致します。また、昨年10月に発生した千葉県を中心とした台風および集中豪雨による被災者の方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

昨年の千葉県内の災害に対して当院ではいち早く対策本部を立ち上げ災害派遣医療チーム(DMAT)を中心に医療支援活動を開始しました。幸いにして当院の被害は数か所の雨漏りと短時間の停電のみで病院機能はほとんど低下しませんでしたので、地域災害拠点病院としてライフラインが途絶えてしまった他院の重症入院患者や分娩間近の妊婦の緊急受け入れを行いました。また、被害の大きかった病院へDMATを派遣する医療支援も積極的に行いました。

今後このような想定外の自然災害にいつでも対処できるように、人員や設備の整備だけでなく、より実践的な事業継続計画(BCP)の策定、行政や医師会との連絡網や指揮系統の共有システム構築、定期的な合同防災訓

練の実施など、早急に取り組んでいく予定です。

従来より当院では地域完結型医療を実践すべく、地域連携に力を注いできました。これからも医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーらと多職種協働による地域医療連携をさらに深化させ、病院や診療所だけでなく行政、介護施設、在宅医療関係者を含めた地域全体における多職種協働での患者サービスを充実させて入院前後の患者サポートの強化を図ってまいります。地域の基幹病院として国の推進している地域包括ケアシステムの要となるような体制を実現し、地域の方々当院で最善の医療を適切な時期に受けられることを目指しています。

これからも診療面におきましては地域へ専門性の高い医療が提供できるように人材の確保ならびにハード面での整備を継続してまいります。

我々は東邦大学建学の精神である「自然・生命・人間」を礎として、大自然に囲まれた佐倉の地で、生命の尊厳を忘れず人として地域社会へ貢献することを本懐としてまいりますので、変わらぬ御支援、御理解をお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして佳き年になるよう心から祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

公開講座「腎臓と健康」

腎臓内科 大橋 靖



大橋 靖 准教授

2019年10月5日(土曜日)に公開講座「腎臓と健康」が行われました。天気の良い中、参加人数81名と、大変多くの方にご参加頂きました。当日は西田三十五市長もおみえになり、市長さんも最後まで参加され、一生懸命にメモを取っておられました。糖尿病や腎臓病は病気が進行すればするほど医療費が必要になる旨ご理解いただき、早期発見・早期治療、慢性腎臓病(CKD)の重症化予防は、医療費削減の面からも喫緊の課題であることもお伝えさせていただきました。

公開講座は、キッセイ薬品株式会社とオムロン株式会社の共催でいただき、私、大橋より「1) 腎臓がわるいですねといわれたら」、3階西病棟 岡野 航 看護師より「2) 実践! 正しい血圧の測り方」、そして山浦 一恵 管理栄養士より「3) 体験! 腎臓にやさしい食生活」についてお話させていただきました。

すべての腎臓病がお薬で治るといいのですが、一旦悪くなってしまった腎臓の働きが回復することは難しく、慢性腎臓病(CKD)の重症化予防には日々の自己管理が大切です。今回は家庭血圧の測定と減塩や低たんぱく食の工夫を中心に話をしました。血圧は診察室で測った値より、ご家庭の値が重要です。診察室で、「先生、いつもはこんなに高くないよ、機械壊れてんじゃないのか?」と言われることもあ

ります。是非、ご家庭の血圧の様子を教えてください。その血圧を指標に治療をプランしましょう。

腎臓にやさしい食事の実践のため特殊食品の紹介もしました。皆様にご興味をもっていただき試食は盛況でした(お味噌汁面白いお味でした)。すべて計算して食事療法するのは容易ではありません。低たんぱく米を利用することで、おかずを一品増やすことができることもあります。毎食ではなく、週に何回とか、外食をした日の夜は特殊食品に置き換えるなどのご使用でもよいと思います。

皆様、熱心に講座を聞かれ、市長同様、メモをとっておられた方もたくさんおられました。スタッフ一同、反省点もありますが役割を果たせたのではないかと感じております。本会が皆さまの末永い健康の一助になることを祈念しております。



2020年 公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
1月25日(土) 13:00~15:00	うつ病と地域生活 ~地域で進める ころの健康~	<メンタルヘルスクリニック> 桂川 修一 他
2月	休会	
3月28日(土) 13:00~16:00	<地域で考えるケアと治療> 歩行障害	<脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他>
4月	調整中	調整中
5月30日(土) 13:00~15:00	褥瘡対策について(仮)	<褥瘡対策委員会> 林 明照 他

ご参加お待ちしております

身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を開催しております。多くの市民・医療関係者の方々にご出席いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページでもご案内しております。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、当院総務課にご連絡下さい。

冬の感染対策について

感染対策委員長 長島 誠



長島 誠 准教授

「冬の感染症」の代表的な疾患といえば「インフルエンザ」です。インフルエンザは流行すると、テレビや新聞のニュースなどで取り上げられ、教育機関では毎年のように学級閉鎖を引き起こす冬を代表する身近な感染症の一つです。日本における流行期は通常12月から3月頃です。

●インフルエンザと一般的な風邪とは何か違うのでしょうか。
ウイルスの種類が異なります。インフルエンザは法律で定められた感染症であるという点が大きな違いです。

インフルエンザは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で《五類感染症》という分類に定められています。インフルエンザ以外の五類感染症には、麻疹や風疹などがあります。

●インフルエンザと一般的な風邪症状にはどのような違いがあるのでしょうか。

インフルエンザは、一般的な風邪症状と比較すると症状が重く、以下のような特徴があります。

1. 38℃を超える発熱

2. 強い悪寒
 3. 全身痛、関節痛など
 4. 強い倦怠感
 5. 気管支炎、肺炎、脳炎などの合併症
- 65歳以上の高齢者や肺・腎臓・心臓などに基礎疾患を持つ人は、重症化や合併症を引き起こすリスクが上昇することがわかっています。

●インフルエンザの感染様式と予防について

インフルエンザは「飛沫感染」と「接触感染」によって感染が成立します。

飛沫感染とは、くしゃみや咳などでウイルス飛沫が空気中を浮遊しているうちに他の人の呼吸器に吸い込まれることにより起こります。この飛沫はマスクの着用で防御できます。

接触感染は、環境に触れることによりウイルスを手指に付着させてしまい、その手が無意識に鼻や口に触れることにより起こる感染です。予防は手洗いにより手を清潔に保つことです。また、マスク着用により汚染された手が鼻や口などに直接触れなくなることから、マスク着用の効果も期待できます。

手洗いとマスク着用で、インフルエンザ感染の予防効果が期待できます。感染しないよう予防に努めてください。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の紹介

薬剤部 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 伊藤 緑

妊娠中や授乳中はお薬を避けるべき、と思いませんか? 残念ながら、赤ちゃんへの影響を心配してお薬をやめたり、減らしたり、母乳をやめたりするお母さんや、妊娠自体をあきらめる女性は少なくありません。でも妊婦さんだって、風邪や花粉症でいつとき体調を崩すこともあります。出産年齢の高齢化で、慢性の病気をお持ちの妊婦さんも増えていきます。お薬が必要となる機会は意外と多いのです。実際は、赤ちゃんに大きな影響を与える薬はごく一部に限られており、多くの薬は服用しながら妊娠・授乳をできることが、過去の経験から分かっています。お薬を飲まないことで、お母さんの体調が悪化し、赤ちゃんの発育が悪くなることもあります。妊娠中や授乳中にも必要であればお薬を使います。

妊娠中や授乳中にお薬を飲むかどうかは、患者さん一人ひとりの病状や、妊娠の時期によって判断が異なります。お薬によるメリットとデメリットを評価するには専門的な知識が必要です。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師は、国内外の最新の情報を収集し、お母さんと赤ちゃん双方に有益で安全に使用できる薬を、専門的な知識をもって評価します。また、産科・小児科医師、助産師等と情報を共有して、一人でも多くの女

性が、安心して妊娠・出産を迎えられるよう、お薬に関する支援を行っています。赤ちゃんへのお薬の影響を心配される女性に対しては、薬剤師が直接お話を伺い、個別に相談を実施しています(写真)。一人ひとりの意思を尊重し、納得してお薬による治療が受けられるよう助言を行っています。

普段は、産科病棟に勤務しておりますが、外来に通院されている妊婦の方、これから妊娠を希望される方の相談も受け付けています。薬剤師との相談を希望される方は、遠慮なく担当医や助産師におっしゃってください。

妊娠・出産・育児は女性にとって大きなライフイベントの一つです。喜ばしく輝かしい、その大切な時期を、お薬による過剰な不安を抱えずに、正しい情報をもって過ごしていただくお手伝いができればと思っています。

